

FIRST LOVE

FERDINANDO FREGA



初恋

The Art of Attraction · 01

1978年9月、私は母とクルゾーネで暮らしていた。北イタリア、ベルガモの上の高い丘にある小さな町で、母はそこで国家公務員の職を勝ち取ったのだ。私は母についていき、その町の学校に通った。

家族のほかの者たちはレッジョ・カラブリアに住んでいた。父はこの引っ越しを褒美として、本物の経験として差し出した。本当は、私は自分が監視下にある少年だと知っていた。性格のせいで、見張り役が、家庭教師が必要だったのだ。そして母ほどの適任はいなかった。

父が買ってくれた新しいバイクがあった。約束は守られた、いつものように。私は最高の成績で試験に合格し、褒美を勝ち取っていた。

母は私の門限を交渉しようとしたが、たいていは罰として私を家に閉じ込め、そのまま仕事に出かけた。私が最初に計画していたことのひとつが合鍵を作ることだとは、一度も想像せずに。

私は友人たちと出かけた。みんなバイクを持っていて、ひとり残らず彼女がいた。私にはいなかった。

カルラという、とてもかわいい女の子と知り合ったが、彼女にはあまりにも時間がかかった。口説くこと、キス、互いを知ること、紹介、両親、儀式。

私が長期戦向きの少年ではないとわかると、カルラはベルガモの羊飼いを見つけた。彼は愛と一緒に、父親の土地も彼女

に手渡した。

そのあいだに、1979年4月、母は転勤を認められ、私たちは私の故郷に戻った。

最初の心配は、一年を無駄にしないよう私をいちばん近い学校に移すことだった。だが残り時間はあまりに少なく、学校の評価では進級が認められず、私は一年目で落第した。

姉が同じ学校に通っていた。翌年、彼女はなぜ私に彼女がいないのかと尋ね、自分のクラスメートのひとりを紹介してくれた。私たちは互いを知りはじめた。

私はどうすればいいのか知らなかった。キスのことは知っていたし、そのやり方も知っていた。だが彼女のほうが経験豊富で、三度目のデートのあと、私を海辺の暗い浜へ連れていった。そこで私は、彼女につけこんだりしないと約束しなければならなかった。そして、その通りになった。

翌日、彼女は私を振った。アハハハハハ。

あまりに早い出来事だったので、彼女はすぐに別の男と付き合い、そのあとさらに別の男と付き合った。その一年、私は数えるのをやめたが、ひとつだけわかったことがある。彼女たちが求めることを約束してはならない。彼女たちが望むことをせよ。

Ferdinando